

平良博子さんの見解と展望

今回は、貴重な資料を見させていただき、ありがとうございました😊✨

糸の様子を私の観点からお伝えさせていただきます。

①S 撚りの木綿糸でした。

撚りの回転数などはわかりません。

②布目の印象として、ふっくらしているように見えました。これは、ある程度着こまれたことにより、やわらかな風合いになったのかな？と感じました。これは、浦添型の裂を見た時と同じ印象です。

風合いについては、織りにも影響しますので、高機で織られたのか、地機で織られたのかでも違ってくるのかな？とも思いました。織りの先生方に教えていただきたいところです！

③表地と裏地は同じ布だと思いました。

というのも、「表地だから糸を太めに」「裏地だから細めに」など、紡ぎ手が微調整するのは木綿糸は特に難しいと思われ、私は太さの調整はできません💧

以上が私の見解です。

今回このような機会を頂けた事は、以前、伊差川先生から浦添型の復元に携わらせていただいたおかげです。

私の技術は恥ずかしながら自己流に近く、継続してもいないのであの時と同じくらい未熟です😓

とにかくあの当時は紡ぎたいという一心でやっていた事を伊差川先生に「実」にさせていただいたようなものです🍊

今回、私にできる事は何かとずっと考えております。

現在、保育士として働いている事もあり、時間的に制約がありますが、糸紡ぎに興味のある方同士集まって、楽しさを体験する会を開いたりする事くらいかなー？と思ったりしています。

その中から、復元衣装に携わりたい方が必ず見つかると思います！

私にできる？できそうな事で、ワクワクする事です😊